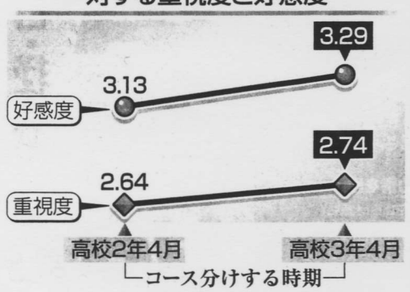
理系か 文系か いつ決める？

進学コース「高2で選択」多く

専門家ら「早すぎる」疑問の声も

「将来何になりたい？」―小学生なら無邪気に答えられた問いだが、高校生には重くなる。進学希望の生徒は、受験対策のため早い時期に理系、文系のコース選びを迫られる。選択時期が早すぎると疑問の声も上がっているが、なかなか決められない場合どうしたらいいのだろう。

理系文系のコース分け時期と数学に対する重視度と好感度



※重視度（とても重要～重要ではない―の4点尺度）、好感度（大好き～大嫌い―の5点尺度）。国立教育政策研究所の調査による

夏休みに開かれた明治大（東京）のオープンキャンパス。目当ての学部の説明や模擬授業に聞き入る生徒がいる一方で、大学全体のガイダンスや施設見学だけで帰る生徒もいる。夏休みの課題に出されて訪れた高校1年生も多いようだ。茨城県の高1所亜弥さんは「なりたい職業が決められない。どの学部に行けばいいのか分からない」と漏らす。

国立教育政策研究所が実施した進路選択に関する調査（全国488高校対象、2011年）によると、1年生で理系か文系か希望をとり、2年4月から分ける学校が最も多かった。

各教科について、どの程度好きかという好感度や、生きていく上で重要だと思う度合いなどが、コース分けする時期によって違いがあるか分析したところ、好感度や重視度は、3年4月からコース分けした生徒の方が、2年4月に分かれた生徒よりも高くなった。職業意識についても、3年からコース分けした生徒の方が若干、明確になる傾向がみられた。

同研究所は、早くコース分けをしても、進路に対する意識が高まる効果は、必ずしも表れていないと結論付けている。

中学、高校などの青少年期の教育を研究している法政大キャリアデザイン学部の児美川孝一郎教授も、早い段階での進路選択に疑問を呈す。「就職が難しく、転職も多い時代。同じ会社に居ても、さまざまな分野の業務に就く。高2から特定分野の学習に絞ってしまい、幅広く学んでおかなくて大丈夫なのか。生涯働き続ける上でのマイナスの影響が考えられていない」と指摘する。

児美川教授は、高校で理系文系を決められないなら、とりあえず（文系にも移りやすい）理系を選択する、大学なら入学してから方向を決められるよう学際的な学部を選ぶという方法もあると話す。

「（進学するなら）高校でなりたい職業を見つけられなくても、人生の荒波に流されないよう、自分の根っこにある、いかりのようなものが見つかればいいのではないか」と指摘している。

明治大で実施されたオープンキャンパス＝東京都千代田区

めざせ 理系っ子

理科好きでもテストは低得点

家庭学習に力入れて

新聞やテレビで「子どもの理科離れ」と言われて久しくなります。本当に、子どもたちは理科が嫌いになってしまったのでしょうか。私は小学校に勤務している理科教諭ですが、子どもたちに理科への嫌悪を感じることはほとんどありません。

学校から帰ってきた子どもから、理科の授業で習ったことを一生懸命説明してもらったという経験をした方は少なくないと思います。子どもたちが面白いものに夢中になり、不思議なものに興味を持つのは、今も昔も変わらないのです。

理科の授業のことを、得意になって説明してくれる子どもの姿を見ていると「うちの子は、理科が好きなんだ」と思うものです。ところが、テストの採点結果をもらってくると、予想外に低い点数になっていて、驚かされます。つまり、「理科が好き」でも「理科の勉強が得意」とはならないのです。

イラスト・藤井啓誌

理科が好きな子は、新しいものを経験することや、ゲーム感覚で実験などをすることが好きです。一方で理科の学習は、算数のような明快な答えの出ないものが多い上に、名前など覚えることが多くあります。授業を受けているときは新しい事実の発見にいきいきしていますが、そこで終わってしまい、家庭で理科の学習に取り組む子どもたちはほとんどいないのが現状なのです。結局、これが低い点数をもたらしています。

算数や国語の学習に力を入れる家庭は多いですが、どうも理科は大切にしてもらえないようです。でも、理科もまた家庭で大事にしてもらいたいと思います。科学的な思考力や表現力を養うため、国語や算数の力を結びつけて複合的に活用する教科だと考えるからです。（小学校教諭・安達誠）

× ×

理科や算数の苦手意識をなくし、将来は理系に進める子どもに育ってほしい。そんな希望を持つお父さんやお母さんに、家庭でできる子育てを解説します。

あだち・まこと 53年京都府生まれ。京都市立大塚小で理科を教え、天文研究家としても活動。著書に「中学生までで決まる！ リケダンリケジョの育てかた」（保育社）など。

有機野菜たっぷり「大学カフェ」 学生が運営、好評

「恵泉女学園大学のオーガニック・カフェ」の表紙

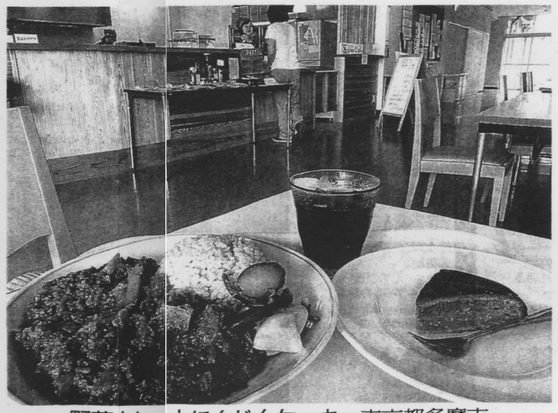
恵泉女学園大（東京都多摩市）で、学生が運営する「オーガニック・カフェ」が好評だ。

カフェは2012年にオープン。毎年の学園祭で、近隣の人たちにオーガニックな食材を楽しんでもらおうと茶を振る舞ったのがきっかけ。学生が調理や接客、売り上げの管理などを行い、メニューも考える。

野菜カレーやトマトの冷製パスタ、にんじんケーキなど体に良く、彩りも良いものばかり。化学肥料を使わずに野菜を育てる授業が役立ち、カレーに添えるピクルスはキャンパスで作られた。にんじんは福島県の有機農家が育てたとか。

メニューをまとめたレシピ本「恵泉女学園大学のオーガニック・カフェ」（コモンズ・1365円）も出版された。同大教授（園芸学）の沢登早苗さんは「学生には食事を大事にと伝えています。今後、学内で作った野菜や、福島を応援する物を取り入れたい」と話している。

カフェは学生以外でも利用可。問い合わせは同大、電話042（376）8211。



野菜カレーとにんじんケーキ＝東京都多摩市